令和４年度　向粟崎小学校評価計画書

（自校の実態に応じた学校評価書）

①よくあてはまる　②あてはまる
③あまりあてはまらない　④まったくあてはまらない

重点目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価	①	○成果　◆課題　・改善策
学力の向上	基礎学力の確実な定着を図る取組の充実	「聞く」ことを中心に共通理解・共通実践を行っている。	学級の実態に合わせた学習規律の定着のための取組を実施した〔努力指標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 94.1%	29.4%	○「聴くこと」に重点を置いて共通実践することで、学習規律の定着につながった。
			友達や先生の話を反応しながら最後までしっかりと聞いている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 96.2%	46.6%	
	学び合い、高まりの実感できる授業づくり	授業のねらいから、ゴールの児童の姿を明確にできていない。授業の終末の時間を確保し、自己の変容に気づかせる授業づくりが求められる。	ねらいに迫るための深めの発問を実施した。〔努力指標〕	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	C 66.7%	6.7%	○授業の終末の時間を確保し、言語活動や適用問題をすることで、「分かった」「高まった」実感を得ることができた。 ◆深めの発問が十分でなく、根拠をもたせる再思考の場を設けられなかった。 ・国語と算数の授業において、深めの発問を実施できた時間を週案に記録する。
			授業を通して、できることがふえたり、考えがより深くなったりした。	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 94.1%	55.5%	
	学力向上ロードマップの活用	学年・学級間格差が生じないよう、組織的なＰＤＣＡサイクルを進めていく必要がある。	学力向上ロードマップのPDCAサイクルをもとに、組織的に学力向上に取り組んでいる。〔努力指標〕	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 85.7%	21.4%	○昨年度７月より4.4ポイント増加し、①（よく当てはまる）と答えた割合も8.9ポイント増加した。 ・さらに意識して共通実践できるように取組を周知していく。
豊かな心の育成	児童が互いを認め合う温かい学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気はあるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	児童が互いを認め合える具体的な取組をしている。〔努力目標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 94.1%	41.1%	○行事と合わせた取組や、学級の実態に合わせた取組を進め、自己肯定感や自己有用感をもたせることができた。 ◆昨年度７月よりも保護者の①（よく当てはまる）の割合が7ポイント低い。 ・２学期も取組の実施方法を工夫し、それぞれの意識を更に高めていく。また、取組やその結果を保護者に発信していく。
			「心のアンケート」をもとに、子どもと自分や友達のよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果指標〕	保護者アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 82.5%	14.6%	
			友達のよいところや頑張りを認めている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 81.2%	41.5%	
			友達から認めてもらっている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 84.2%	37.6%	
	場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはうまくできない子も多い。	友達や先生、地域の方へあいさつが定着するように指導した。〔努力指標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 82.3%	47.0%	○児童はあいさつに対して肯定的に捉えている。 ◆保護者のAの割合が低い。また、児童の評価との差が大きい。目指すあいさつの姿は、教員と、保護者は「相手に届くように、はっきりと」と考えており、コロナ禍での児童の意識と乖離していると思われる。 ・児童と共に目指すあいさつの姿を考え、取組を行っていく。
			子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている〔成果指標〕	保護者アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 80.9%	21.6%	
			先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 91.1%	63.0%	
健康と安全	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通した基本的生活習慣の確立	基本的な生活習慣の定着させるために、就寝時刻を守ることが必要がある。	児童が健康（生活プランニング）や安全に気をつけて生活するための指導をした。〔努力指標〕	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 100%	36.0%	◆低学年は③「あまりあてはまらない」の割合が多く、中・高学年は④「あてはまらない」の割合が多く、寝る時間を意識できていない。 ・睡眠時間を確保することの大切さを指導していく。
			子どもは学年の目標の時間に寝ている。〔成果指標〕	保護者アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 75.1%	25.3%	
			学年の目標の時間に寝ている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 76.8%	33.3%	
地域との連携・協働	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていく必要がある。	地域人材を活用した授業を行った。〔成果指標〕 ①：３回以上　②：２回 ③：１回　④：０回	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	D 14.3%	0.0%	◆コロナ禍で、ゲストティーチャーを招いたり、交流や見学に行ったりする機会が減っている。 ・学校支援事業計画に沿って実施していく。
働き方改革	町教職員働き方改革方針の目標達成	月によっては超過勤務時間が８０時間を越える職員もいる。	ノー残業デーには、特別な場合を除き、６時を目処に業務を終了した。〔成果指標〕 ①毎週　②月２回程度 ③月１回程度　④できなかった	~~勤務記録~~ 教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	D 47.6%	23.8%	◆昨年度よりも改善したが、時間外勤務時間が多い職員が固定化している。 ・行事予定や連絡黒板に、定時退校やノー残業デーを明記し、声かけをしていく。
学校評議員による意見			・聴く姿勢が良く、友達の方に向きを変えている児童、先生の話をしっかり「聴く」児童が多く見られた。 ・とても落ち着いて学習に臨んでいる。 ・先生方の一人一人への目配りが有難い。 ・年々活発になってきているが、今年は特に発表を元気にしていた。 ・各教室のエアコン完備、体育館の冷風機など学習環境が整備されていて良い。					